



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2011-2012年度 R I 会長 カルヤン・パネルジー



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度 第2590地区ガバナー 上澤摩壽雄

- | | | | |
|-----------|-------|-----------|--------|
| ● 会長 | 加藤 仁昭 | ● 会長エレクト | 飯田 泰之 |
| ● 副会長 | 伊東 英紀 | ● 副会長 | 山本 潔 |
| ● 幹事 | 天野 公史 | ● 副幹事 | 西山 潔 |
| ● 会計 | 朝日 達夫 | ● 副会計 | 田口 健太郎 |
| ● S A A | 山本 芳弘 | ● 副 S A A | 吉田 隆男 |
| ● 副 S A A | 横溝 亘 | ● クラブ会報 | 小山市 康 |

●クラブテーマ「感謝・継承・進化」●



写真提供 小池将夫会員

- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和51年5月29日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2011-2012年度 **第32週報 No. 1731** 2012年(平成24年) 3月2日 第1731回例会記録 3月9日発行

司会 西山 潔 副幹事

誕生日祝 西山 潔 会員 (3月4日)
大橋 秀行 会員 (3月8日)

点鐘 加藤 仁昭 会長

斉唱 「君が代」 「奉仕の理想」



ロータリーの綱領 川邊 正男 社会奉仕委員長
(第1例会のみ)

四つのテスト 植田 清司 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 荒谷 卓 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介 横浜MM21RC 山田 晃久 様

本日〈3月9日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「我等の生業」
 - ◆ 献立 鶏肉のレアブル風
 - ◆ 卓話 「プロスポーツと地域との連携について」
- 横浜ビー・コルセアーズ ゼネラルマネージャー
小川 直樹 様
(紹介者 加藤 仁昭 会員)

結婚記念日祝

赤堀 和人 会員 (3月3日)



会長報告

加藤 仁昭 会長

・マレーシア・ルーヤンRC公式訪問の報告

(期間) 2012年2月21日～24日

(参加者) 吉田隆男、須永久一、茂木知子、白鳥厚夫、植田清司、加藤仁昭 計6名

(目的)

- 1) フェリス女学院高校生の英訳絵本を現地孤児院 (Caring for the Future Malaysia) へ贈呈
 - 2) ルーヤンRCとの現地小学校の図書館支援共同プロジェクトの実施 (HWALIAN PRIMARY SCHOOL)
 - 3) 交換学生プロジェクト実施のジャンタオ高校訪問
 - 4) ルーヤンRC例会出席
 - 5) 東日本大震災義援金の御礼
- ・2月28日地区拡大・増強セミナー出席の報告
日本国内において、2590地区だけが昨年12月末現在会員数が▲12になってしまった。(1地区 ▲4がある)
他の全地区はプラスになっているため、ガバナー始め地区役員から各クラブの一層の増強運動を期待するとの発言があった。

幹事報告

天野 公史 幹事

- ・次週、例会終了後に3月度定例理事会を開催致します。
- ・次々週、16日は例会終了後にクラブ協議会を開催致します。本日、ご案内を事務局より発信致しますが、本年度は会長方針で全会員の出席を奨励しております。多数の会員の出席をお願い申し上げます。

委員会報告

雑誌委員会 委員長 赤堀 和人

ロータリーの友3月号を紹介致します。

まず、横組みから、1ページと55ページにRI指定記事がありますので、必ず読んで下さい。横組みでは、今月は識字率向上月間と題して「子供たちの未来をつくる」を5ページから紹介しています。

また、日本から3人目のRI会長ということで「奉仕を通じて平和を」と題して28ページから紹介しています。39ページには2590地区上澤ガバナーが紹介されています。40ページからは「同論、異論」と題して、「ロータリーに広報は必要か、否か?」。これにはプライドを持ってバッジを着けようという大変考えさせられる記事が載っております。

縦組みでは、2ページから松下幸之助、成功の発想と危機克服の心得と題して、松下資料館顧問の川越森雄様から記事を頂いております。

今月号も素晴らしい記事満載ですので、ご一読下さい。

親睦活動委員会 委員長 田中龍太郎

5月20日(日)に毎年恒例となっております「春の家族会」を開催致します。今年の家族会は、目まぐるしく変貌する東京のランドマーク巡りと、粋な下町情緒をご家族の皆様と体感して頂き、楽しい時間を過ごして頂くと思っております。

皆様ご多用のこととは存じますが、ご家族お誘い合わせの上ご参加を頂きたく、よろしくお申し上げます。

出席報告

金森 欣一 出席委員長

会員総数	56名	(39+17)名	
出席会員数	45名	(33+12)名	
出席率	88.24%		
ゲスト	1名	ビジター	1名
前回補正後	92.16%	前々回補正後	94.23%

スマイルボックス

山本 芳弘 SAA

横浜MM21RC 山田晃久様 本日、お世話になります。

西山 潔君 お誕生日のお祝いを頂きまして、ありがとうございます。54歳になりました。カトちゃん目標に頑張ります。

赤堀和人君 本日は結婚祝い、ありがとうございます。

加藤仁昭君 ①先週はマレーシア・ルーヤンRC公式訪問に行ってきた。②本日の卓話、荒谷様、よろしくお祈いします。楽しみにしております。③横浜MM21RC 山田様、ようこそ。

吉田隆男君 加藤さん、白鳥さん、植田さん、須永さん、茂木さん、ルーヤンRC公式訪問、お疲れ様でした。貴重で感動的な体験もさせて頂きました。特に白鳥さんには航空券やホテルの手配、通訳などあらゆる面でお世話になり、ありがとうございました。

山本 登君 昨日、長期療養中の義母が亡くなりました。本日早退させて頂きます。

伊澤政宏君 ①先週の例会、欠席しました。申し訳ありません。②2月22日の第一テーブルミーティング参加の皆様、ご苦勞様でした。2月22日は大橋ジムの誕生日でもあったそうです。

須永久一君 先週のマレーシア・コタキナバルご参加の皆様、大変お世話になりました。往復22時間の長旅、疲れしました。

脇田いずゞさん 冷たい雨です！雪よりいいですかね～。

茂木知子さん ～コタキナバルレポートNo1～「白鳥さん、ミステイク」 終始格好良い白鳥さん、ジャンタオ高校を去る時、ふと彼の座っていた椅子を見ると一枚のカードが残されていました。よく見るとマッサージ嬢のカード。急いで白鳥さんにお渡ししました。

白鳥厚夫君 マレーシア・ルーヤンRC訪問に行きまして。ジャングル開墾を見て、生きる力を得ました。

山本芳弘君 3月～6月のテーブルミーティング表をお配り致しました。過去4年間の資料をもとに組みましたので、よろしくお願ひ致します。副にはPPの方に加わってもらいました。

3月2日	12件	30,000円
本年度累計		1,469,278円

卓 話

「武士道」

明治神宮武道場至誠館 館長 荒谷 卓 様
(紹介者 田口健太郎 会員)



なぜ欧州で武道が注目されるのか

今、欧州で日本の武道の精神性に対する関心が高まっている。

今年の8月に「国際至誠館武道アソシエーション」主催の国際武道セミナーが、フランスのラスコー洞窟の近くドルドーニュ県ペリグー市で開催された。欧州10ヶ国、約40の道場から選抜された武道家たちが集まった。セミナーのテーマは、「オリジン」つまり起源や源泉、そして人類の祖先という意味だ。

セミナーを主催した欧州人たちは、「現代は市場中心のグローバリズムによって人類の正しい路線から著しく逸脱した時代」と定義しており、人間の本来の立ち位置に戻ることをテーマに据えたのだという。これはこの武道家たちが特別変わっているという訳ではなく、現代欧州人たちの不満や迷いを象徴したテーマ設定だと考えられる。

人間の欲望をエンジンとして無制限にマネーの獲得競争を許容するグローバル市場は、極端な貧困の差を生み、少数の富裕層の特権を守り、多くの人々の権利を奪う仕組みを極限まで膨張させてしまった。この市場原理の中では、個と個の自由競争だけが重視され、社会や共同体という概念は忘れ去られ、消滅していく運命にある。こうしたグローバリズムへの反動が、移民排斥運動や偏狭なナショナリズムの台頭という現象としてすでに多くの欧州諸国で現れている。

国際武道セミナーの参加者たちは、こうした中途半端はナショナリズムを超えて、さらに本質的な民族の原点、人類の原点を追及しており、その「オリジン」を探す手掛かりとして、日本の武道に注目している。

彼らは日本の武道の中に民族を超えて共通する本質的な普遍性を感じ、そこから民族の原点を探り出そうとしているのである。

武道とは道理を探求する生き方

日本の武道とは単に戦闘能力を高めるためのツールではない。武道には、社会集団の中で自分自身の犠牲を美德とする道徳概念を内包している。つまり武道は、戦闘者が単なる戦闘能力を持つ武者に終わらず、「世のため人のために尽くし」、道理を探求して実践する道へと導く生き方を教えているのである。しかも戦争という究極の状況に置かれながらも、精神の目的に応じて肉体を使い切る道をプロフェッショナルなレベルにまで高めたという点において、武道には、他の武術とは異なる独特の進化を遂げている。

例えば武道には「捨て身」や「入り身」という動きがある。これは自らを敢えて危険なゾーンに入れる態勢のことである。剣道においても剣下に身をさらすことは、初期の段階で学ぶ基礎である。これは「身を捨ててよし」とする精神が土台にあるためであり、「わが事よりも他者、世の中のため」という精神がなせる業であると言える。

日本の武道とは、柔道であれ合気道であれ、すべてそうした精神性に裏打ちされている。

同じような武道の精神性は、相手が「参った」と言った時点で戦いを終えることにも表れている。これはスポーツとしてルールが確立する以前から存在した習慣である。すなわち殺し合いの実戦をしている時でさえ、「参った」と言って相手の心が非を認めたならば、無用の殺傷は控えるという精神である。

相手の心を糺せばそれで十分とする、「相手を活かす」精神が武術に備わっているわけである。

先の国際武道セミナーにはドルトーニュ県知事でフランスで青少年のスポーツ振興を担当する政府代表も研修に訪れた。彼は、日本の武道精神はフランスの社会と青少年に不可欠であると言明し、フランスの義務教育の中で青少年の健全な精神育成に役立てたいとの意向を示した。

彼らは、世のため人のために生きる道を、武道を通じて青少年に学ばせることで、行過ぎたグローバリズムで破壊されてしまった社会や共同体の再生に役立てられると考えているのだ。

不可分な武士の精神性と神道の教え

こうした武道の精神性は、日本の神道文化と不可分の関係にある。

マレーシア・ルーヤンRC公式訪問の報告

今回は、神奈川県東RCから加藤会長、須永さん、吉田さん、植田さん、茂木さん、白鳥の計6人でマレーシア・ルーヤンRCへ2月21日(火)から2月24日(金)まで訪問致しました。



フェリス女学院からの絵本をアベさんが運営する Rumah Kanak Kanak へ贈呈致しました。ここは若者(ストリートチャイルド含む)に自給自足を体験させるジャングルを切り開いた宿舎であり学校でもある自然一杯の体験場です。



ルーヤンRCのインターアクトを行っている Shan Tao High School (3年前来日)を訪問し、インターアクターの任命式に立ち会いました。



古事記・日本書紀の神話では、最初に現われる神「天之御中主神(アメノミナカヌシノカミ)」は、宇宙の中心に在り、すべての根源を表している。その中心に霊的かつ物的エネルギーが集約し放出されることで万物が生じ、発展するという考え方である。この天地・万物を生成、発展させる霊的な働きを、神道では「産霊(ムスビ)」と呼んでいる。この産霊の活動の中から生まれた霊のことを「直霊(ナオイ)」と呼び、自分の中にある直霊に従って生きるのが神道の教えである。

従って、個は全体の発展活動の一部を担う存在で、個々の努力はそのまま社会全体の発展に寄与すると考える。自分の身体は、このような全体の幸福を望む直霊の精神の顕現である。

この神道の発想は、武道の鍛錬と共通している。武道においては「腹を鍛える」と言って臍下丹田に意識を集中することによって、そこからエネルギーを出す鍛錬を重ねるが、これはそもそも直霊の力を出すという発想に基づいている。だから他の武術やスポーツと違い、武道においては中心以外に力点を作らない、すなわち力まないことが重要とされる。体が力んでしまうと臍下丹田の直霊のエネルギーが滞ってしまうからだ。こうした神道の教えに基づく武道においては、そもそも自他に優劣は存在しない。他者も自身と同じように直霊を持ち、各自が体内に神性を内包しているからである。これは究極的な平和主義に繋がる思想でもある。武道が単なる戦闘技術とは異なり、相手を活かす精神性を備えているのは、こうした神道の教えに裏打ちされているからだ。

さらにこうした神道の教えは、日本の社会を支える原理でもあった。そもそも日本における社会、共同体とは、個人の持つ直霊と直霊の関係を基盤としていた。自身よりも強い霊を持つ人に対する尊敬の念から、自発的にその人の下に入り、そこで自身の直霊を社会のために使うという発想が根本に存在した。

日本の社会は、欧米で使われるコミュニティとは異なる精神的な側面が強い集合体である。そしてこの社会の強さは、東日本大震災における地方の団結力や精神性の高さに現われていた。セミナーに参加した欧州の人々は、この日本人の姿に激しい衝撃を受けていた。

かつて、キリスト教徒であった内村鑑三は、「(武士道)日本における唯一の道徳・倫理であり、かつ、世界最高の人の道」と述べ、「日本武士は、その正義と真理のため生命を惜しまざる犠牲の精神に共鳴して神に従った。武士道がある限り日本は栄え、武士道がなくなるとき日本は滅びる」とまで断言した。

今、世界がこの奥深い普遍的原理の存在に気づき、日本に目を向け始めている。



『戦う者たちへ -日本の大義と武士道-』も御一読下さい。
(並木書房刊/1500円+税)

ロータリーニュース

インド、ポリオ常在国リストから除外

世界保健機関（WHO）はこの度、インドを公式にポリオ常在国のリストから除外しました。これは、2月25日にインドのニューデリーで開催された2012年ポリオサミットで、WHOのマーガレット・チャン事務局長からの発表を、インドのグラム・ナビ・アザド保健相が代弁する形で伝えられました。

インドで最後にポリオの感染が報告されたのは、西ベンガル州の2歳の少女への感染で、2011年1月13日のことでした。以来、インドではポリオの感染が1件も確認されておらず、1年間ポリオ無発生を達成しました。

インドが常在国のリストから除外されたことにより、現在のポリオ常在国は、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国となりました。インドでのポリオ撲滅が証明されるには、これから丸2年間、ポリオの無発生を維持する必要があります。

同サミットに出席したインドのマンモハン・シン首相は、次のように述べています。「インドで1年間、1件もポリオ感染の報告がなかったことは大変喜ばしいことです。このことは、インドからだけでなく、この地球上からポリオを撲滅できるという希望を与え、また、撲滅にはチームワークが重要であるということを示しました」

二価経口ワクチン

インドでの成功の大きな要因は、現存する二種類のポリオウイルスの両方に効果のある二価ワクチンを幅広く利用したこと、また、徹底した監視活動を行ったことでした。

WHOによると、監視活動のおかげでポリオワクチンの予防接種を受けない子どもの数を1%以下に抑えることが出来ました。

国際ロータリーは、インドにおけるポリオ撲滅活動において大きな役割を果たしてきました。これまで11万9,000人のロータリアンが子どもたちへの予防接種活動に参加してただけでなく、ポリオ認識向上のための集会を主催したり、撲滅のための広報活動に尽力してきました。ロータリーは1988年以来、世界ポリオ撲滅推進計画の主要パートナーとして、WHO、ユニセフ、米国疾病対策センターと協力してきました。また、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団も、同推進計画の主要な支援団体です。

世界中のロータリアンによる支援

「世界中のロータリアンによる支援のおかげで、インドのロータリアンは全国予防接種日を毎年実施し、何百万人もの子供たちにワクチンを投与する活動を継続することが出来ました。インド人として、ロータリーの達成を誇りに思うと同時に、インドだけでなく、ポリオのない世界を実現するために、今後も予防接種活動を続けていかなければなりません」と語るのは、カルヤン・パネルジー R I 会長（インド、バビ・ロータリー・クラブ）です。

ロバート S. スコット、ポリオ・プラス委員長はインドでの達成を「ポリオのない世界への大きな前進」であり、どのような困難な課題があっても、必ず乗り越えられるという証明とし、インドの



ルーヤンRCの例会に出席し、加藤会長が“東日本大震災のお見舞金のお礼” “将来も友好クラブとしての絆を築こう”等の挨拶をされ、Hwalian小学校図書館への30万円贈呈を致しました。



全体的に我々6人非常に有意義な時間を過ごさせて頂き、Lim Chee Dean 会長、P P Kent Chau、Abdul Halim Egoh 会長エレクト、P P Priscilla Oon、P P Christina Lo、Mrs. Pauline Lo 始め多数の会員、特に三堀夫婦には常に全ての行程に付き合ってもらい、深く感謝申し上げます。

新世代奉仕委員会 委員長 白鳥 厚夫

ロータリアンの尽力を称えました。また、インドのポリオ・プラス委員長であるディーパク・カプール氏は、インド政府がポリオ撲滅活動にこれまでで 12 億ドルを費やしてきたことに言及し、インド政府による撲滅活動の支援が大きな役割を果たしたと述べました。



第 3201 地区（インドのケララ州とタミル・ナドゥ州の一部）により開催された「All India End Polio Now Road Show」の様子

記事：Dan Nixon
国際ロータリー・ニュース

ユニセフ親善大使のキジョーさんが バンコク国際大会で講演予定

2012年5月6日～9日まで開催されるバンコク国際大会に、グラミー賞受賞歌手のアンジェリーク・キジョーさんが参加します。

ユニセフ親善大使でもあるキジョーさんは、その優れた音楽の才能を生かし、世界各地で人々を勇気づけてきました。

自ら設立した財団「Batonga」では、アフリカの少女たちへの教育を推進しています。また、フェアトレード（公正取引）のキャンペーンや、紛争や虐待の要因となる小型武器売買の廃止にも努めています。

キジョーさんについては、「ザ・ロータリアン誌」2011年4月号にも記事が掲載されています。

キジョーさんは、国際大会中、5月7日（月）の本会議で講演し、また5月4日（金）のロータリー世界平和シンポジウムでも講演する予定です。また、ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌスさん、Global Poverty Projectの共同設立者兼CEOのヒュー・エバンスさん、元ロータリー平和フェローのアマンダ・マーティンさんも講演者として名を連ねています。

3月1日までに国際大会の登録をすると、登録料が195米ドルとなります。それ以降、ロータリアン、その配偶者、19歳以上のゲストの登録料は245ドルとなります。

ムハマド・ユヌスさん

バングラデシュにあるチッタゴン大学の経済学教授だったユヌス

さんは、マイクロクレジットを通じて貧困層の人々の生活改善に貢献しました。最初は自分の資金で貧しい農村部の女性に少額融資を行っていましたが、後にグラミン銀行を設立するまでに発展しました。現在は、バングラデシュ国内に2,500以上の支店を擁しています。

ヒュー・エバンスさん

エバンスさんが共同設立者兼CEOを務める Global Poverty Project は、極度の貧困を緩和させるため、行動を起こすよう人々に働きかけています。最近では、ポリオ撲滅活動への支援も始めました。

アマンダ・マーティンさん

マーティンさんは、タイとミャンマーの国境地域にある難民キャンプで公共保健カリキュラム・コーディネーターと教師を務めています。彼女は、バンコクのチュラロンコーン大学にあるロータリー平和センターで3カ月間の修了証プログラムに参加しました。

公演「A boy and a Tiger」

バンコクのロータリアンは、大会出席者のためにさまざまな文化体験ツアーやイベントを企画しています。ホスト組織委員会主催行事（チケット制）の一つである「A boy and a TIGER」は、世界的に有名な「パイの物語」からインスピレーションを得たオペラ公演で、国内の恵まれない子どもたちが音楽やダンスなどを披露します。



グラミー賞受賞歌手のアンジェリーク・キジョーさんがR Iバンコク国際大会に参加します

記事：Arnold R. Grahl
国際ロータリー・ニュース

次回《3月16日》の卓話予定
テーマ「マレーシア・ルーヤンRC公式訪問の報告」
白鳥 厚夫 会員（新世代奉仕委員長）